

知性タイプ

- ・ 緩慢な常時緊張
- ・ 生理と心理のバランスを保つ様に調節的
- ・ 飲食については事務的
- ・ 観察者の孤立性（価値選択性）
- ・ 見通しの態度（環境調整的人生観）

知性タイプは、物事に対する理解・把握と行動に対する筋道立てを重んずる。理由根拠を理解したい。習慣的な行動以外は、「なぜそうすべきか」「なぜそうしたか」「なぜそうなったのか」の分析が要求される。情緒タイプの様な好き嫌いや気分、直感的の行動、行動タイプのその時だけの「ともかく」の必要性での決断は出来ない。決断はいつも筋道の計算の完了にあり、物事の結果の先読みが不可能であることは解っていながらも、一応の見通しがないと行動に移れない。新しい環境に対しては、情緒タイプのように直感的に重点を感じ取る勘もなければ、行動タイプのように当たって砕ける行動性もないので、事が終わってからの分析は正しくても後の祭りになりやすい。したがって、知性タイプの人生の前半期は、自己のや環境を論理的に理解するリハーサル時代であり、行動タイプのように人生の前半で勝負を決めようなどとは思ってもよらない。故に、知性タイプは未来を計算している。例えるなら、人生を一つのマラソンのように見立てている。

情緒的知性タイプ（帝旺・絶）
豊かな感受性のために知性が情緒をコントロールしきれない。むしろ情緒が知性を引きずる。これは一見すると情緒タイプと混同させられる。しかし情緒タイプが感情に溺れるのに対し、情緒的知性タイプは溺れることはなく常に自己を見つめる客観的な眼がある。この様にこのタイプは常に自分からの脱出を試みる。情緒がしばしば自己嫌悪を駆り立てるからである。このタイプの、人間的な豊かで深い精神的な味わいは、現実の苦悩によるもの。外界への適応性に秀でるのも特徴。

行動的知性タイプ（胎・建祿）
情緒性のかからないこのタイプは、前者のような情緒的な「ひたる」という心理には程遠い。淡白な胎、クールな建祿。確かさと安定感はあるが滋味や愛嬌に欠け、近寄り難さがある。分析や計画が綿密なため行動の内的基準はブレないが、情緒性が乏しく思考に走り過ぎている為、外界との密着性や適応性には乏しい。

外的価値志向（帝旺・建祿）	社会・他者が認める価値の想像に重点をおく
内的価値志向（胎・絶）	自分自身の内的統一に価値の重点をおく

開放タイプ・外側（胎・帝旺）
心に秘密がなく、人に対し楽観的で信頼的で、自分を語るのに巧み。お喋り。相手の心理に共存的・寛容で、同時に不注意となりやすい。人を見ること（人の自分に対する反応を知ること）には疎い。相手の心に呑気。ものごと・人に対し、大まかで断定的、細部は切り捨てていく。

内閉タイプ・内側（建祿・絶）
人に対して割合に警戒的で、自己を語るのに不得手。その反面、人を見ること、批判することには巧み。相手の心理に対して常に対立的で批判的、さらにそこから、自分に対する対立・批判をも読み取ろうとしている。知性タイプの分析的なところが強い。開放タイプよりも部分的な批判が鋭く、統一性まとまりを要求しない。開放タイプが解説的であるのに対し、内閉タイプは批評的。